

令和6年度神石高原町立神石小学校経営方針

1 学校教育目標

自ら伸びる子・共に生きる子の育成

・自ら伸びる子

アイデンティティ（自尊心・自己肯定感）をもち、自律（自ら考え自分の行動を振り返って）して、高みを目指して失敗を恐れず**挑戦し課題解決する**児童を育てる。

・共に生きる子

教育は、教職員、保護者、児童、地域等、児童を取り巻く人・社会・文化とのかかわりによって行われる。教師は意図的・計画的に児童と他者との関わりの場を設け、児童たちが共によりよく生きていくことができるよう指導にあたる。

2 学校経営理念・方針（ミッション・ビジョン）

教育に係るマネジメント

（１）人を育てる人が育つ学校 < 教師 >

教職員は最大の教育条件である。教える立場にあるもの自身が、今この瞬間も児童及び学級集団から学ぶ当事者であるという立場で教育するとき、児童は学びへの意欲をもち、主体的に学ぶことができる。教育のプロ（職人）として、創造的に、よい仕事をする教職員でありたい。

「倫理観と人間性を磨き、自ら新たなものを創り、一段高い目標に挑戦する教職員」

「社会や児童の変化に柔軟に対応し、連携・協働して組織的に職務遂行できる教職員」

「豊かなコミュニケーション能力をもち、自らの職能伸長を第一とする教職員」

そのためにも、教職員は、健康な姿で児童に接したい。校内外の業務改善を図り、勤務時間外労働時間を減少させることは、管理職及び他の教職員の使命である。

（２）児童の姿で教育を語る学校 < 児童 >

目の前の児童の現実是指導の現実である。教師の教えたいことが児童の学びに転化される教育の理想を追求するために、児童の姿で教育を推進する教師（学校）でありたい。教職員として、「児童の姿は指導の結果」であることを誇れる教育を創造する。

（３）シンプル イズ ベストが定着した学校 < 高い質 >

簡潔で整理された場・時・礼節は、児童にとって最高の教育環境である。

教師の言葉の力を磨き、表現を美しく簡潔にし、心を伝える。

時間意識・コスト意識をもって業務を改善しながら働き方改革を進め、最大の教育効果を上げる。

3 学校経営目標

組織に係るマネジメント

知を創造し、挑戦する学校

- (1) 学校運営の要としての企画委員会をミドルリーダーが運営する。
- (2) ミドル・アップダウンによる組織運営・管理をめざす。
- (3) DCAPサイクルによるカリキュラムマネジメントを実施する。

(中期経営目標)

- ① 授業力を向上し、基礎・基本の学力定着、思考力・判断力・表現力を育てる。
- ② 他者と共に、よりよく生きようとする豊かな心を育てる。
- ③ 目標をもって自ら進んで体を鍛え、やり抜く気力と体を育てる。
- ④ 児童・保護者・地域に信頼される開かれた学校を創る。

4 めざす学校像

児童も教師も自らの伸びを自己評価しながら、学びを楽しむ学校

知：基礎・基本を確実に習得させ、学びを自ら活用し調整する学力を育てる学校

徳：他者と共に、よりよく生きようとする豊かな心を育てる学校

体：進んで体を動かし、目標に向かって挑戦するたくましい体を育てる学校

(道徳重点課題 学校：善悪の判断、自律、自由と責任・国や郷土を愛する態度)

※低：・善悪の判断、善悪の判断、自律、自由と責任・規則尊重 中：善悪の判断、自律、自由と責任・伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 高：善悪の判断、自律、自由と責任・伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度

5 めざす子供像

令和6年度キャッチフレーズ

パス&ゴール「つなぐ」大作戦

パス ⇒ 「まかせたよ・たのむよ」

※相手を信じよう。

※頼まれたら、責任をもってやり遂げよう。

ゴール ⇒ 「自分で決めて、自分で表現しよう」

※自分で考えたことに責任をもって決定しよう。

※他の人の考えをよく聴き判断し、表現しよう。

※他の人のよさを認めよう。

児童が、「自ら伸びる」ためには、児童同士の信頼関係・児童と教職員との信頼関係が土台として必要である。だれかが、自分の思いで活動をしようとしたことに対して、「まかせたよ。」「たのむよ。」という信頼されているという安心感があるだけで、様々なことに挑戦でき、自

分のよさを発揮することができ、生き生きと活動し続けることにつながる。また、児童が自分が考えて活動したことには、責任をもたせることも必要である。一人一人が「自他のよさ」を知り、「自らの」考えをもち、その考えを自分の言葉で相手にはっきり伝える（表現する）ことで新たな力が生まれるものとする。さらに、「自らが」「何が分かっているか」「何が分かっているか」を認識し、「伝える」ことができるためには、相手（周り）の人の話を「聴く」ことも大事な要素の一つである。

このような人間関係のもとに積み上げられた表現力は、「あいさつ」や「返事」という日常生活の中で使える力になるものである。

また、「自分の考え」をもち、課題解決（ゴール）に向かって取り組んでいるとき、多くの困難に出遭うであろう。しかし、仲間と協働して解決に取り組んだり、諦めることなく粘り強く努力し続けたりすることで成長することができるにちがいない。その姿を見つけ価値付けて、磨き、より輝かす、児童の前向きな意欲を育てるのが教職員の仕事である。

常に大きな夢・高い目標をもち、それに向かって果敢に粘り強く**挑戦し続ける**教職員と子どもでありたい。「自分はできない」「やっても無駄だ」「考えてもわからない」と考えやすい児童を、教職員が身をもって**前向き**にさせ「やればできる」と思わせながら、子どもと共に自己実現を図っていく。

教育は刹那、刹那の**感動**をつくることである。教育活動の中で一瞬一瞬の深い感動をいくつも児童と一緒に味わいながら教育活動を続けていきたい。

柔軟に考えるかしこい子

自ら課題を見つけ、自らの考えをもち、協働して解決する子

知識をひたむきに求める子

自分の考えを自分の言葉で表現できる子

挑戦するたくましい子

目標をもち、達成にむけて進んで粘り強く努力する子

あたりまえのことをあたりまえにやりぬく子

集中するさわやかな子

相手の話を集中して聴く子

さわやかなあいさつや返事などの反応ができる子

生き生きと活動し、全力を出し切って感動を味わう子

6 めざす教職員像

○倫理観と人間性を磨き、自ら新たなものに挑戦する教職員

○社会や児童の変化に柔軟に対応し、連携・協働して組織的に職務遂行できる教職員

○豊かなコミュニケーション能力をもち、自らの職能伸長を第一とする教職員

7 本年度の重点課題（短期経営目標）

【確かな学力】

- 国語科を中心とした研究を推進し、児童の主体的な学習の習得に向けた授業改善を図る。
- 個別に最適な学びのできる指導方法等を工夫（ＩＣＴ活用等）し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。

【豊かな心】

- 相手意識をもったあいさつ・返事や心の交流が促進される取組を進める。
- 道徳教育・読書活動等、心が通い合う教育活動を充実する。

【健やかな体】

- 努力が結果となる体験を通して、児童の体力向上の意欲を高める。
- 生活の基盤となる確かな生活習慣を身に付けさせる。

【信頼される学校】

- 地域教材・地域人材の活用で、地域への関心を高める。
- 一人一人の思いに寄り添い、安心して伸び伸びと力が発揮でき、児童・保護者・教職員が、「行きたい」「行かせたい」、教職員が「勤めたい」と思える学校を創る。

重点課題克服のためのポイントは、「取組の動機付け・意欲付け」と「評価と場の工夫」

8 教育研究・授業改善

【研究主題】

「読むこと」精査・解釈を通して豊かに表現できる子どもの育成 —文学的な文章における「思考の方法」を活用した指導を通して—
